

あと一歩だけ、前に進もう

古川彰宏[†] (古川動物病院院長・佐賀県獣医師会会員)

私が佐賀県の唐津に小動物病院を開業して早いもので27年になる。縁もゆかりもない唐津を選んだ理由といえば、開業獣医師が少なかったのが第1の理由であるが、その頃釣りを趣味にしていたため、海の近くに住めば毎日でも釣りができる…。などと不謹慎なことを考えていたのである。現に、仕事が終わって毎晩夜釣りに通っていたこともある。釣りをするために仕事をしてきたような時期もあった。しかし、楽しい夜釣りも毎日では、だんだん飽きてくるのは当然の流れである。「こんなことではいけない。もっと勉強しなくては。」と思い教科書等を開いても、「患者数は少ないし、いつ来るともしれぬ珍しい症例を勉強していてもしょうがないや」などと自分に言い聞かせて、いつの間にやら楽な方に流れてしまうのが常であった。

また、唐津で開業した当初、街をかなり多数の放れた犬がうろろうろしていたことを思い出す。1頭の雌犬を多数の雄犬が取り巻き群れを成していることも珍しくなかった。野良犬かと思いきや飼い犬を放して飼っているか、散歩に行かずに夜、犬を放している飼い主が多数いたのである。そのような地域であるから病気の予防などはほとんど行われることもなく、その当時、フィラリアの予防薬は毎日飲ませる必要があったが、開業する時に大量に買い込んだ予防薬は1錠も売れなかったと記憶している。

また、関東から引っ越して来られた飼い主が診察に来て愚痴をこぼしていた、唐津の人たちは温かくてとても良い人たちばかりなのに動物を病院に連れて行こうとすると、近所の人や職場の人たちから「犬を病院なんかに連れて行くの？ そんな犬、はよ、うしてんね。(早く、捨ててしまいなさい).」と言われる。関東ではみんなで心配してくれるのに…。と憤慨していたのを思い出す。

そのような田舎で開業していても、毎年欠かさず続けてきたことがある。それは、九州地区の学会での発表である。佐賀県は人口も少なく、当然小動物開業獣医師も少ない。前述のような土地柄ではたまに面白そうな症例が来ても、治療させてもらえないことが多く、症例を待っていたのではなかなか発表などできないのである。そのような事情でその頃佐賀県小動物の臨床獣医師で発表

する者もほとんどなく「佐賀県の小動物は九州のお荷物」と言われていると聞いていた。別にそれに発奮したわけでもなく、はじめは、各県3題というノルマからしぶしぶ発表させられていたのだが、いつの頃からか自分の中で学会で発表することが目標になり、義務になり、楽しみになっていった。

我々、小動物開業獣医師は仕事内容の多様性とは裏腹に目標や目的を持っていなければ、毎日単調な生活が続くことになる。特に1次診療施設の獣医師にとって珍しく、学術的な興味をそそる症例は出会うこともないのである。一般的で簡単な治療だけで済むものがほとんどである。ある程度経済的に安定した我々の年代の獣医師にとって、若い頃の純粋な気持ちは消えうせ、ただ単に毎日を過ごしてしまいがちである。下痢を治療し、耳掃除をし、肛門囊しぼり、爪切りをして診療時間が終了し、家に帰ってご飯を食べて風呂に入って寝るだけである。それゆえ、みんなそれぞれ何らかの目標を持って生活していると思われる。その目標はお金儲けであり、動物や飼い主の笑顔であり、または子供の成績の向上だったり、ゴルフのスコアアップだったりする。私の場合はそれが現在のところ「学会発表」なのである。

一昨年、佐賀県獣医師会主催の平成22年度獣医学術九州地区学会において、運よく学会賞をいただくことができた。ここ数年、連続で何らかの賞はいただいていたのだが、目標にしていた学会賞だけは取ることができていなかっただけに、とてもうれしかった。また、開催県

古川彰宏

一略 歴一

- 1979年 鹿児島大学農学部獣医学科入学
- 1985年 鹿児島大学農学部獣医学科修士課程卒業
- 同年 中村愛犬病院にて研修
- 1986年 唐津市にて古川動物病院を開業
- 現在に至る



[†] 連絡責任者：古川彰宏 (古川動物病院)

の佐賀県での学会でいただくことができたのは「地元の利」もあったかもしれないが、うれしさも倍増であった。ノルマで発表していた頃は、学会賞など全く念頭にはなく、ただ形だけ発表していればいいと思っていたが、次第に、一度でいいから学会賞を取ってみたいと思うようになっていた。これでもう、「お荷物とは言わせないぞ」という思いである。

それまでの私の学術活動の目標は九州三学会における「学会賞」だったので、目標を達成した後、私の意欲がどうなるのか自分でも少し心配であったが、その後1年間、学術活動に対する意欲は薄れることもなく、長崎県における平成23年度獣医学術九州地区学会においても一昨年に引き続き学会賞を受賞することができた。また

もや目標達成である。やはり、2度目の時は1度目に比べその達成感は希薄で嬉しさも半減した。2度連続すればそれはもう目標ではなくなり、次の目標を立てなければいけないと思っている。

やはり年のせいも、また健康の不安も重なり若い頃のようなバイタリティや体力はなくなってしまったが、目標に向かって少しずつ勉強をし、全く分からなかったことが少しずつ理解できるようになると、少しずつ成長していく自分を自覚でき、若い頃には得られなかった喜びを今になって感じている。

今後も小さな目標を立てて、コツコツと前に進んでいこうと思っている。

あと一歩だけ、前に進もう。